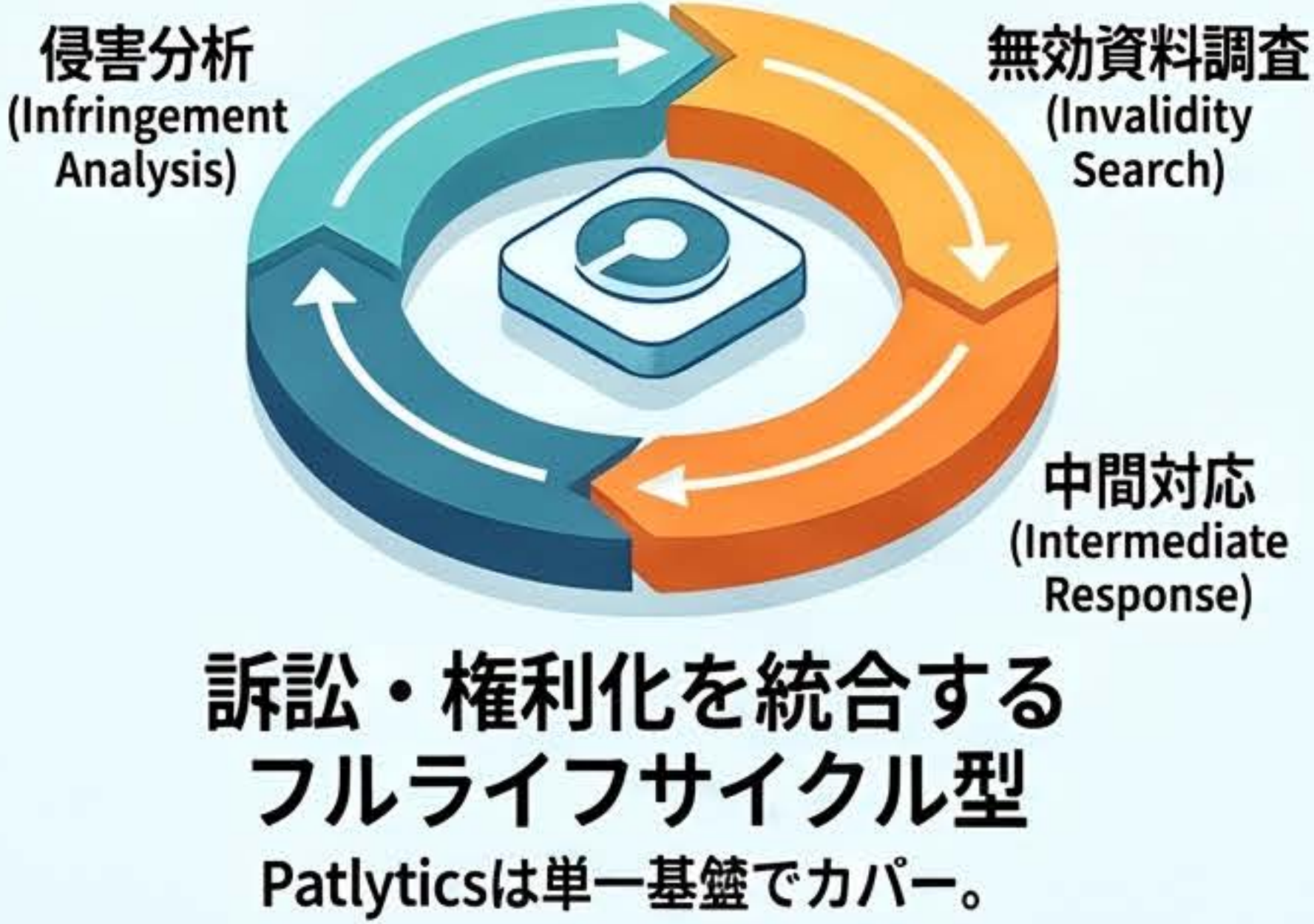


2026年最新版：知財AIプラットフォームの欧米・日本比較分析

2026年、知財AIは単なる「生成補助」から、自律的に多段階処理を行う「Agentic IP（エージェント型）」へと進化。
欧米は特定技術特化の自律プラットフォームが台頭し、日本市場は「アウトプット生成」領域への競争へ軸が移行。

欧米の「Agentic IP」：自律型エージェントへの飛躍

単発生成から「自律型多段階処理」へ



日本市場：3層構造の分化と実務への集中

日本市場を構成する「3つの階層」



競争の焦点は「権利化アウトプット」の自動化



欧米・日本を代表する主要プラットフォームの特性比較

項目	欧米勢 (IPRally, Patlytics 等)	日本勢 (Summaria, AI Samurai 等)
👑 主な強み	⚙️ 技術的な「自律エージェント化」	📄 日本国内の実務フロー・中間対応への適応
🔗 技術アプローチ	🧠 独自GNN、知識グラフ、外部LLM統合	🔄 特化型LLM、弁理士監修のワークフロー
👤 注力領域	🔍 新規性調査、無効分析、訴訟対応	✍️ 明細書ドラフト、中間対応、特許性評価



知財AI特許侵害訴訟の終結と市場の安定

パテント・インテグレーションとPatentfieldの係争が2026年に調停で決着。